

2021(令和 3)年度 「『授業改善』のための調査」報告書

柴田学園大学 FD 委員会
[R4.11]

目次

1. 実施方法.....	3
(1) 実施期間.....	3
(2) 実施・回収方法.....	3
(3) 実施科目.....	3
(4) 調査項目.....	3
(5) 集計方法.....	3
(6) 回答率.....	3
(7) 結果の公表方法.....	3
2. 結果.....	4
(1) 年度別×学科別の14項目の平均値.....	4
◎ 学科別の検討.....	4
(2) 学年、学科別の平均値—健康栄養学科.....	5
(3) 学年、学科別の平均値—こども発達学科.....	7
3. まとめ：今後の課題.....	10

1. 実施方法

(1) 実施期間

授業評価の実施時期は、半期科目・通年科目ともに前期末及び後期末の年 2 回とした。期間としては、前期は 7 月または 9 月に講義終了後、後期は 1 月または 2 月に原則的にその最終講義またはその前の回に実施した。

(2) 実施・回収方法

授業評価は、学期の最終講義か、またはその前の講義中か後に、学生が学内 Wi-Fi から入力サイトの WEB に接続して行った。

(3) 実施科目

卒業研究、学外実習（および一部その関連）科目を除く、全開講科目を対象とした。

(4) 調査項目

（付録「授業改善」のための調査用紙 参照）

調査項目は、選択式回答(自由記述欄を含む 14 項目、5 段階評価)である。教員の授業についての評価 8 項目(項目番号 1~8)、学生自身の授業の取り組み方についての評価 5 項目(項目番号 9~13)、総合的な授業満足度 1 項目(項目番号 14)の計 14 項目からなる。

なお、入力は学籍番号、学部・学年・授業科目名・授業担当者名である。

これ以降、「授業についての評価（項目番号 1~8）」を「教員の授業評価（Q1~Q8）」、「学生自身の授業の取り組み方についての評価（項目番号 9~13）」を「学生の自己評価(Q9~Q13)」と述べる。

(5) 集計方法

調査を実施した全授業科目の科目番号に基づき、すべての調査項目について各開講科目別にデータ処理を行った。

(6) 回答率

実施対象科目におけるアンケート実施状況は、2019(令和元)年度前・後期において 100 パーセントである。アンケートの回答率は、前期は 70%、後期は 47%であった。(表 1)。

表 1 「『授業改善』のための調査」アンケート実施状況

	実施科目数	履修登録者延べ人数	回答数	回答率
2021 年度前期	130	3560	2495	70.08%
2021 年度後期	124	3333	1573	47.19%

(7) 結果の公表方法

個々の科目の集計結果は、次年度授業内容の改善に役立てるために、各科目の担当教員にフィードバックを行った。(付録「学生による授業評価アンケート集計結果表(科目別)」参照)
また、全体の集計結果については、報告書を作成し、学内の教員に公表した。

2. 結果

(1) 年度別×学科別の 14 項目の平均値

以下は健康栄養学科、こども発達学科の各質問項目についての平均点を年度別に整理したものである。

	こども発達学科			健康栄養学科		
	2019(R1)年 度	2020(R2)年 度	2021(R3)年 度	2019(R1)年 度	2020(R2)年 度	2021(R3)年 度
1 興味関心	4.3	4.5	4.5	4.3	4.5	4.5
2 シラバスのチェック	3.5	3.8	3.8	3.8	4.0	3.9
3 予習・復習	3.7	4.0	4.0	3.8	4.0	3.9
4 授業への質問	3.6	3.8	3.7	3.5	3.6	3.3
5 私語などしない	4.3	4.5	4.5	4.6	4.6	4.7
6 内容理解	4.2	4.4	4.4	4.2	4.4	4.3
7 目的明確さ	4.3	4.5	4.5	4.3	4.5	4.5
8 教員熱意	4.5	4.6	4.6	4.4	4.5	4.6
9 話し方明瞭・速さ	4.2	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4
10 学習内容の難易度	4.2	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4
11 学習内容量	4.2	4.4	4.4	4.2	4.4	4.3
12 教材の工夫	4.3	4.5	4.5	4.3	4.4	4.4
13 シラバスと内容の一致	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3
14 総合満足度	4.3	4.5	4.5	4.3	4.5	4.5

◎ 学科別の検討

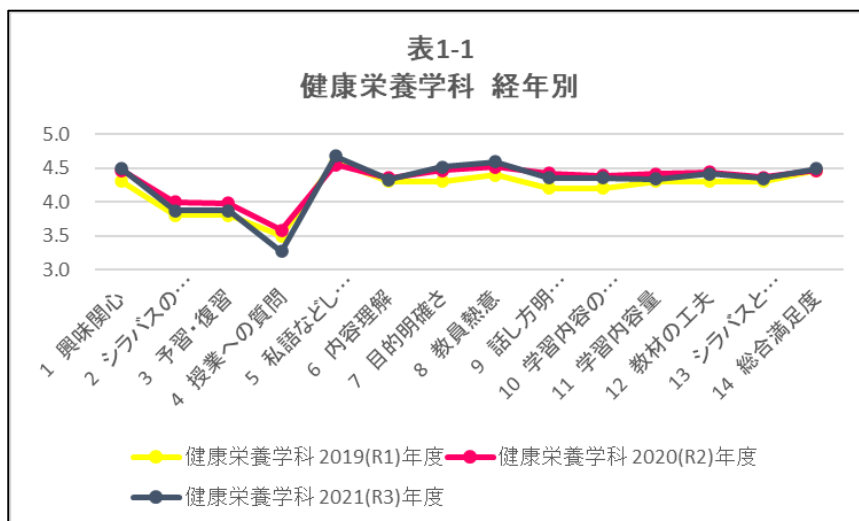


表1-1から、健康栄養学科の数値を年度ごとに比較すると、全体的な傾向としては例年と変わるところはないものの、**授業への質問の項目について、令和3年度は少し低下している様子**がうかがえる。

その他の**授業への満足度**については、**昨年度からの変化はない。**

表1-2
こども発達学科 経年別

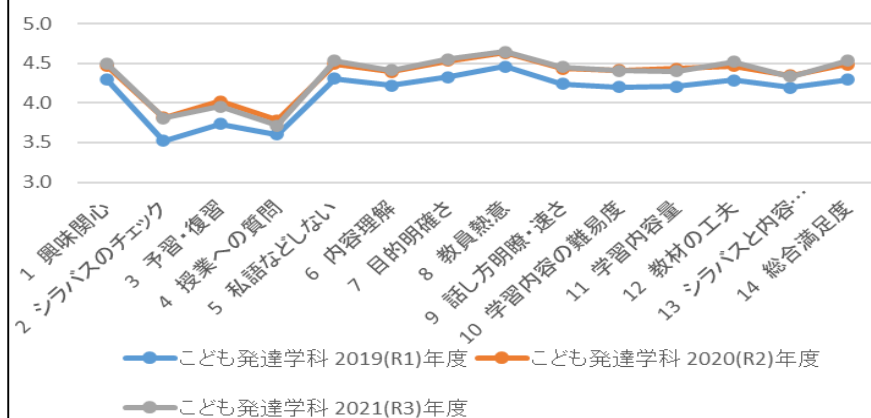
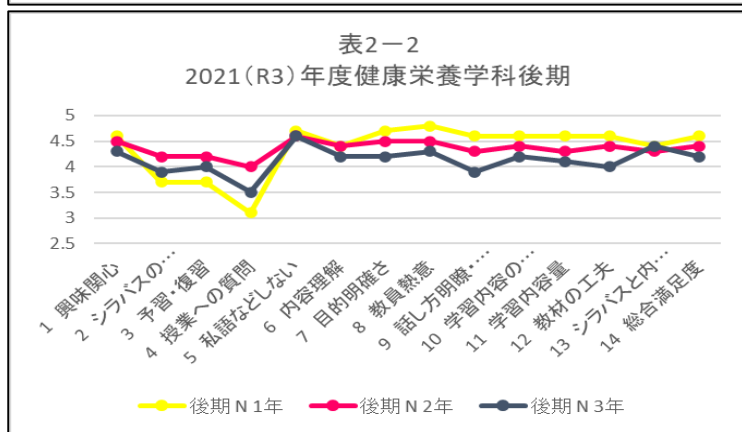
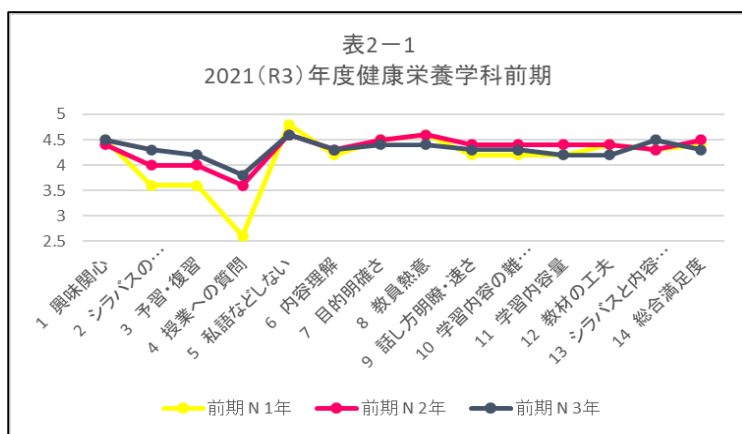


表1-2から、こども発達学科の数値を年度ごとに比較すると、健康栄養学科同様、全体的な傾向としては大きな変化はなく、昨年度と数値はほとんど同じである。シラバスチェックや予習復習の項目で一昨年度から上昇した値が維持されていることは好ましい傾向に思える。

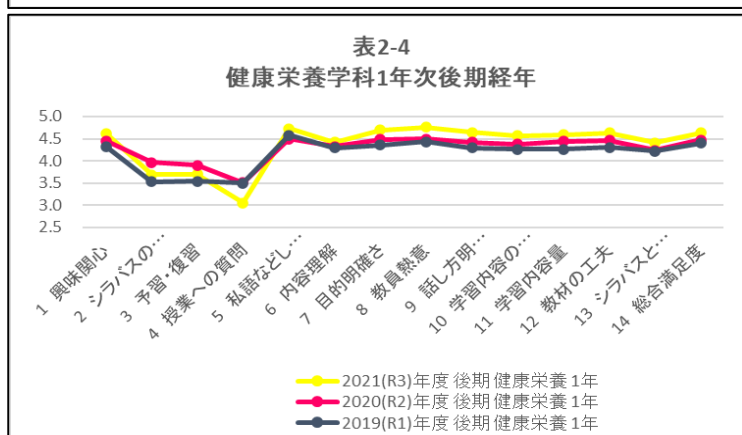
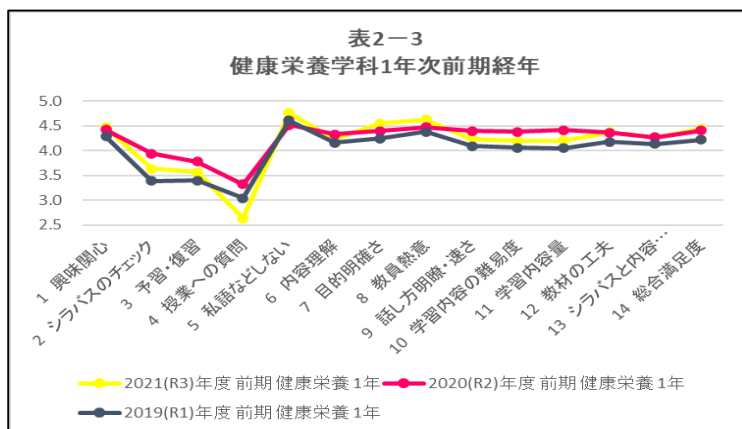
(2) 学年、学科別の平均値—健康栄養学科

学科別の平均値への学年による差異の影響を見るために、学科別の平均値を学年別に整理した。

	2021(R3)年度							
	前期				後期			
	健康栄養				健康栄養			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
1 興味関心	4.5	4.4	4.5	3.0	4.6	4.5	4.3	4.8
2 シラバスのチェック	3.6	4.0	4.3	4.0	3.7	4.2	3.9	4.4
3 予習・復習	3.6	4.0	4.2	4.0	3.7	4.2	4.0	4.5
4 授業への質問	2.6	3.6	3.8	3.0	3.1	4.0	3.5	3.3
5 私語などしない	4.8	4.6	4.6	4.0	4.7	4.6	4.6	5.0
6 内容理解	4.2	4.3	4.3	3.0	4.4	4.4	4.2	4.3
7 目的明確さ	4.5	4.5	4.4	5.0	4.7	4.5	4.2	4.8
8 教員熱意	4.6	4.6	4.4	5.0	4.8	4.5	4.3	4.6
9 話し方明瞭・速さ	4.2	4.4	4.3	4.0	4.6	4.3	3.9	4.4
10 学習内容の難易度	4.2	4.4	4.3	3.0	4.6	4.4	4.2	4.5
11 学習内容量	4.2	4.4	4.2	3.0	4.6	4.3	4.1	4.4
12 教材の工夫	4.4	4.4	4.2	4.0	4.6	4.4	4.0	4.5
13 シラバスと内容一致	4.3	4.3	4.5	5.0	4.4	4.3	4.4	4.9
14 総合満足度	4.4	4.5	4.3	4.0	4.6	4.4	4.2	4.6



*4年生については回答数が少ないため表からは除外した。



<健康栄養学科について>

① 1年次学生の積極性

令和2年度の授業についての報告書では、健康栄養学科1年次の科目について、授業参加への積極性（項目2-4）の値が著しく低くなっていると指摘した。この傾向はR3年度についても同様である。R3年度では特に、**授業への質問の項目については1年生の値が、前期も後期も過年度に比して低い値になっている。**このことは、1年次学生についての経年比較表（表2-3, 2-4）から見て取ることができる。

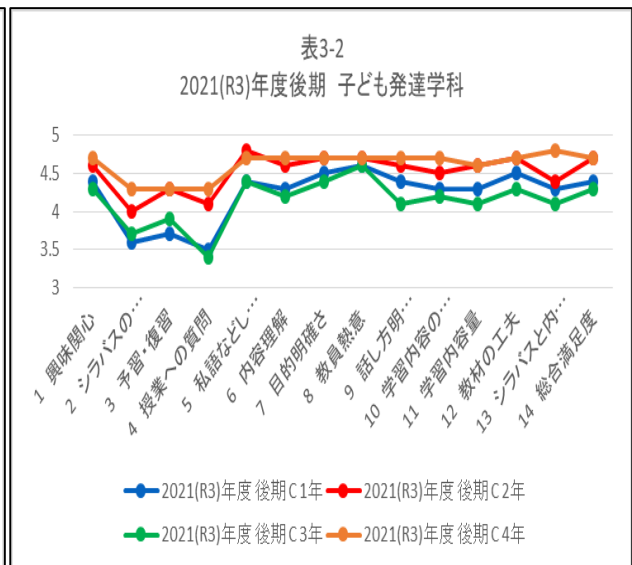
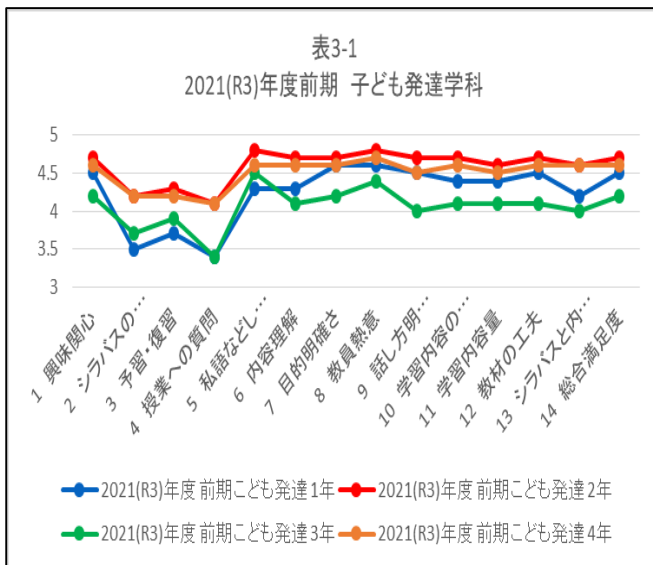
この点については、R3年度半ばに学科において対策が取られた。**後期になりその値が若干上昇（2.6⇒3.0）しているのは、そのような取り組みの影響であるとも考えられる。**ただし、それでもこども発達学科に比べても非常に低い値である点に留意する必要がある。

② 授業理解度・満足度の学年差

表2-2から、**後期の授業科目については学年が上がるにつれて授業の理解度や満足度が下がる傾向が見て取れる。**ただしこの傾向は今年度の後期に固有の特徴であり、オンライン授業の影響があるとも考えられる。

(3) 学年、学科別の平均値—こども発達学科

	2021(R3)年度							
	前期				後期			
	こども発達				こども発達			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
1 興味関心	4.5	4.7	4.2	4.6	4.4	4.6	4.3	4.7
2 シラバスのチェック	3.5	4.2	3.7	4.2	3.6	4.0	3.7	4.3
3 予習・復習	3.7	4.3	3.9	4.2	3.7	4.3	3.9	4.3
4 授業への質問	3.4	4.1	3.4	4.1	3.5	4.1	3.4	4.3
5 私語などしない	4.3	4.8	4.5	4.6	4.4	4.8	4.4	4.7
6 内容理解	4.3	4.7	4.1	4.6	4.3	4.6	4.2	4.7
7 目的明確さ	4.6	4.7	4.2	4.6	4.5	4.7	4.4	4.7
8 教員熱意	4.6	4.8	4.4	4.7	4.6	4.7	4.6	4.7
9 話し方明瞭・速さ	4.5	4.7	4.0	4.5	4.4	4.6	4.1	4.7
10 学習内容の難易度	4.4	4.7	4.1	4.6	4.3	4.5	4.2	4.7
11 学習内容量	4.4	4.6	4.1	4.5	4.3	4.6	4.1	4.6
12 教材の工夫	4.5	4.7	4.1	4.6	4.5	4.7	4.3	4.7
13 シラバスと内容一致	4.2	4.6	4.0	4.6	4.3	4.4	4.1	4.8
14 総合満足度	4.5	4.7	4.2	4.6	4.4	4.7	4.3	4.7

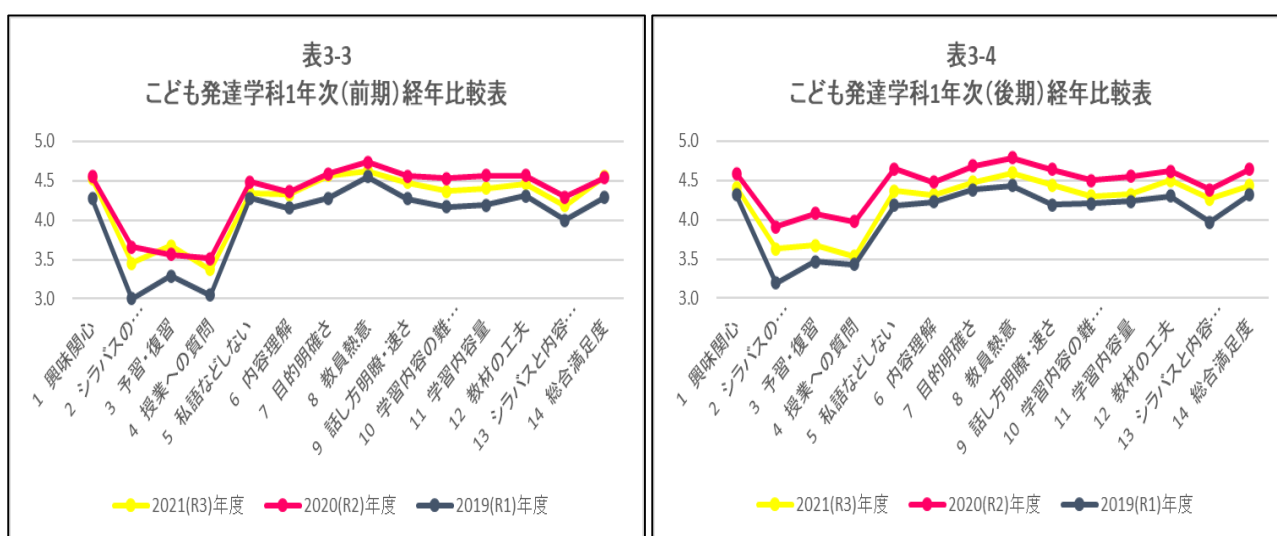


<こども発達学科について>

こども発達学科については、表 3-1、3-2 から、①1 年次学生 (2021C) の積極的授業参加や授業理解に関する値 (項目 1-6) が 2, 4 年次学生に比べて著しく低いこと、後期になり授業満足度 (項目 7-14) が下がっていること、②3 年次学生 (2019C) について、ほぼすべての項目の値が 2, 4 年次学生や、例年の 3 年次 (および他学年) 学生に比べて低いことが見て取れる。

①1 年次学生について

前者の 1 年次学生 (2021C) の積極的授業参加や授業理解、授業満足度については、2019 年度前期に比して、2020 年度後期にかけて改善の傾向が見られていた (下記表 3-3、3-4、また参考 1、参考 2 参照)。しかし、2021 年度の、特に後期になり、また 2019 年度の 1 年次学生 (2019C) の回答に見られたような低い値に近づいている。



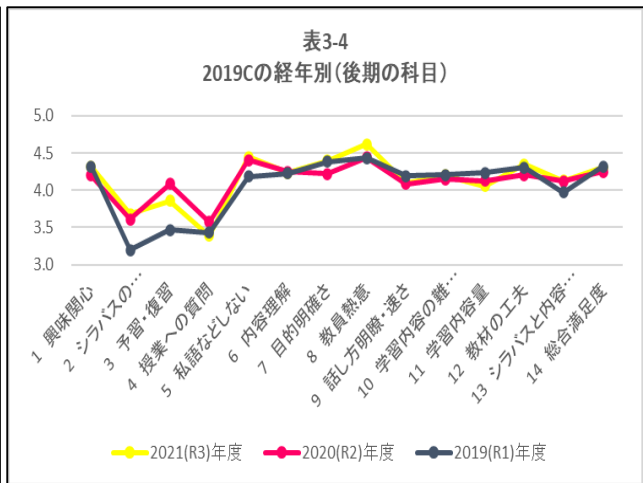
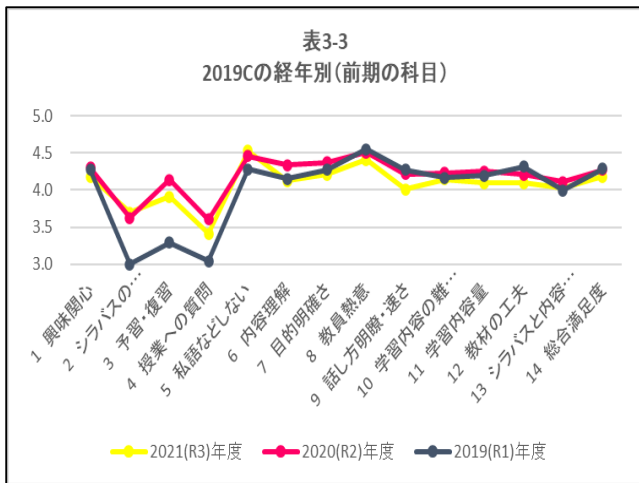
②3 年次学生について (次ページ表 3-3、3-4、参考 1、参考 2 参照)

(i)積極的授業参加 (項目 1-6)

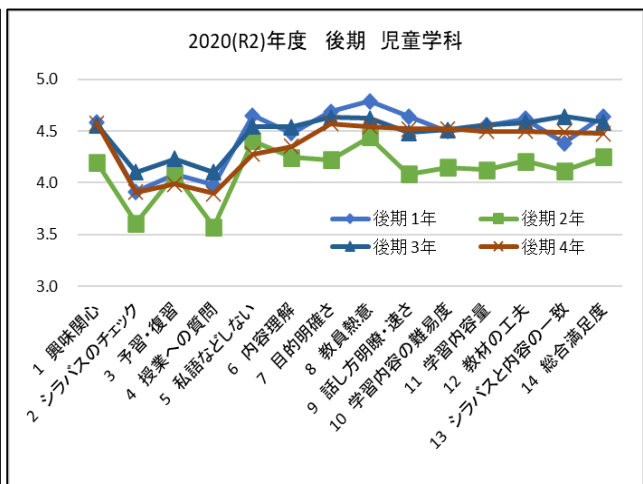
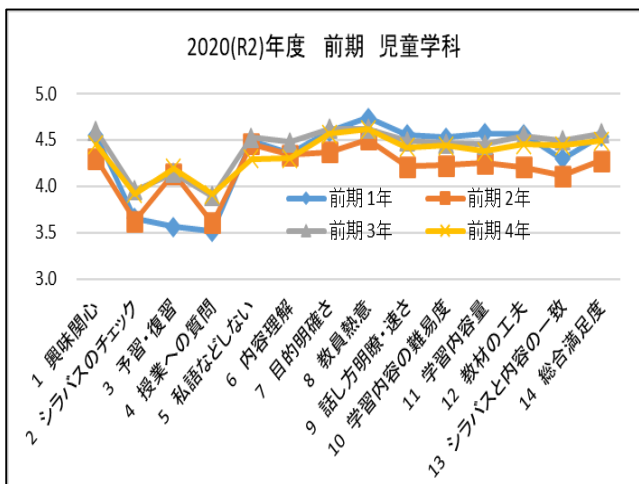
3 年次学生 (2019C) はシラバスのチェック (項目 2) と授業への質問 (項目 4) については、1 年生の時 (2019 年度) から他学年に比べて低い値を示しており、予習復習 (項目 3) については 2020 年度後期に改善したものの、2021 年度 (3 年次) になり、また下がっている。

(ii)授業満足度 (項目 7-14)

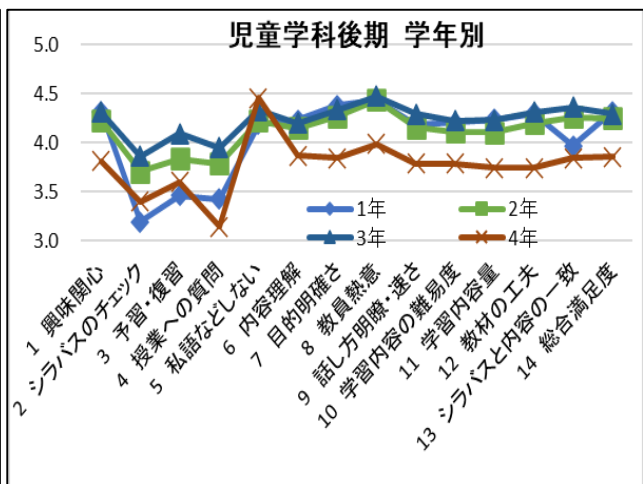
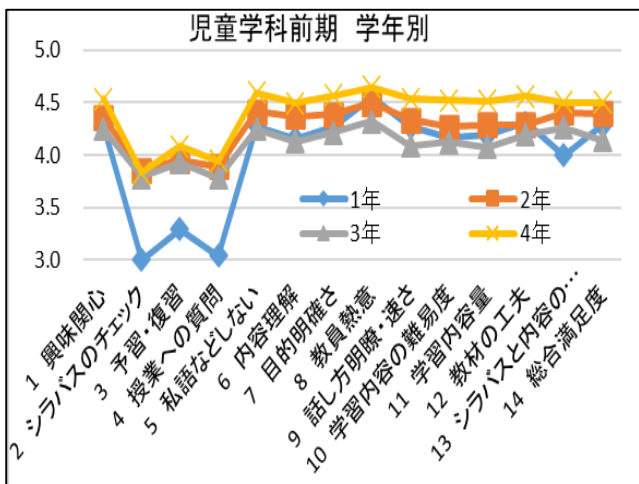
回答項目の後半の授業満足度 (項目 7-14) については、この学年は、経年で見れば大きな違いはないが、同時期の他学年と比較すれば、2 年時に回答した 2020 年度のアンケート、1 年時に回答した 2019 年度のアンケートにおいても例年のその学年 (2020 年度のアンケートなら例年の 2 年生、2019 年のアンケートなら例年の 1 年生) に比べて全体的に低い値を回答している。それゆえ、この傾向は 2019C の学年固有の傾向であるように思える。



<参考1：2020年（令和2年）度 こども発達学科（～R1 児童学科）・学年別集計結果>



<参考2：2019年（令和元年）度 こども発達学科（当時：児童学科）・学年別集計結果>



3. まとめ：今後の課題

(1) 回答率の向上

<学年・学科別回答率>

N=健康栄養学科 C=こども発達学科 ○N=健康栄養学科○年次学生 ○C=こども発達学科○年次学生

① 前期

	履修者数	回答者数	回答率		履修者数	回答者数	回答率
1N	667	606	90.9	1C	676	561	83.0
2N	506	358	70.8	2C	640	360	56.3
3N	311	199	64.0	3C	477	209	43.8
4N	1	1	100.0	4C	282	201	71.3
平均			81.4*				63.6

*4Nは除く

② 後期

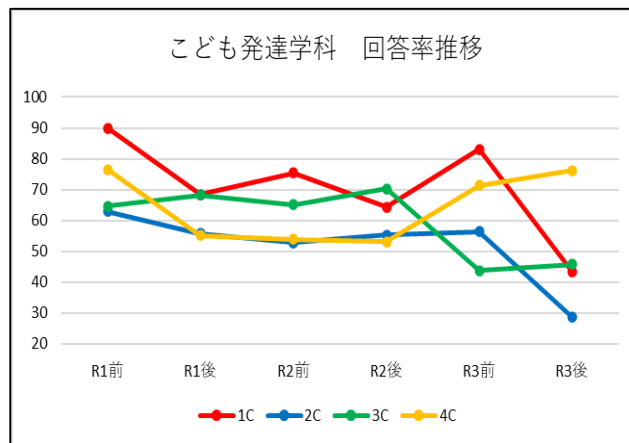
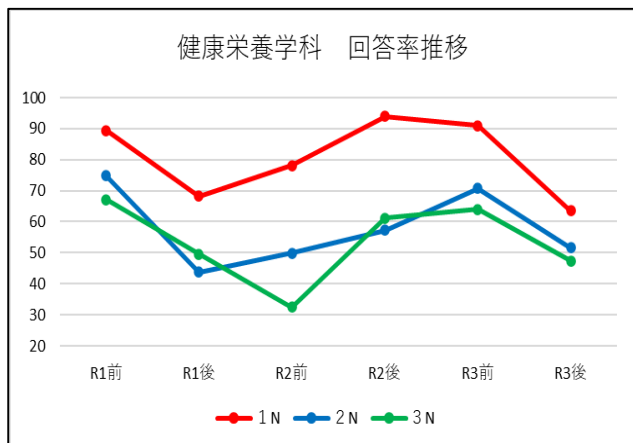
	履修者数	回答者数	回答率		履修者数	回答者数	回答率
1N	642	408	63.6	1C	749	324	43.3
2N	457	236	51.6	2C	633	181	28.6
3N	277	131	47.3	3C	413	189	45.8
4N	36	8	22.2	4C	126	96	76.2
			54.1*				48.4

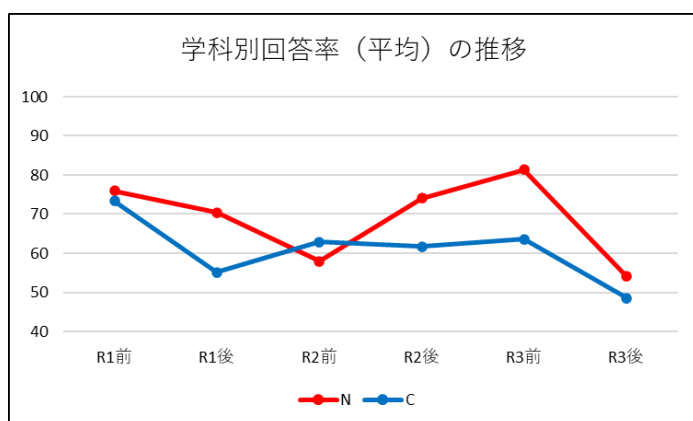
*4Nは除く

<全体平均の回答率>

	実施科目数	履修登録者 延べ人数	回答数	回答率
2021年度前期	130	3560	2495	70.08%
2021年度後期	124	3333	1573	47.19%

<回答率年次推移（4Nは科目数が少ないため除外）>





回答率の向上は昨年度から継続して課題となっていたところであるが、令和3年度の回答率は両学科平均で前期70%、後期47%であった。令和2年度の回答率が両学科平均で前期61%、後期67%であったことから、前期については、回答率は若干向上しており、この点は前向きに捉えられる。後期については、令和3年度は後期終盤から完全オンライン授業になったことから、毎回の課題提出に追われ、15回の講義終了後のアンケートへの回答を失念していた学生が多かったことも予想される。

全体として、2、3年生の回答率が低いことに対しては、例えば**14回目、15回目の2回とも授業時間内に回答の時間を取るなど、「回答するための時間」を確実に設けることが対策としては考えられる**。また、**学生の回答のモチベーションが低いことが予想される**ということはR2年度のアンケートについての報告書においても可能性として指摘してあったが、R3年度のアンケートについても同様の傾向が見られることから、その可能性は高まった。この点については、**本報告書（あるいはその概要）を学生にも公開する（HP上では公開されているため、学生でも見ることはできるが、存在を知らない可能性が高いため）ことや、クラス主任によるガイダンス時などにおいて回答への協力を改めて依頼するなどの方策を委員会**で検討する。

(2) 学科ごとの課題

①健康栄養学科

- 上述のように (p.6)、**1年次学生の消極的姿勢（積極的な質問）は改善の傾向を見せているが、その傾向が継続しているかは確認する必要がある。**
- また、2020年度の授業において消極的姿勢を示していた**2020Nの学生について、学科全体として到達すべき学びの目標の観点から問題がないかを、学生の平均点などから検証する必要がある。**
- さらに、昨年度後期に見られた学年による差については、現時点ではこれを特段問題視する必要はないとは思えるが、R4年度の傾向と照らし合わせて、R5年度に再度検討することとする。

②こども発達学科

- 1年次学生（2021C）の積極的授業参加については、他の項目については大きな差異が見当たらないことを考えると、積極的に授業に参加する意義を感じていないことも想定される。**このことは、2021年11月に実施した授業時間外学習についてのアンケートにおいて、1年次学生（2021C）が時間外学習の必要性をあまり感じていなかったことから見える傾向である。授業時間外学習についてのアンケートでは、特にこども発達学科学生の学びの姿勢についての懸念（積極的に取り組まなくても単位が取れるという意識）、授業時間外でも学んでみたいと思うような魅力的な内容の授業が求められることなどを述べたが、**今回のアンケートの結果からは、1年次学生（2021C）に**

については、改善させることができなかったということがわかる。これは、時間外学習についてのアンケートにおける提言が各科目に反映されていなかったか、また反映されているとしても、1年次学生については明確な効果を得られなかったということである。この学年の学生の1年次の成績等と併せて、**こども発達学科として検討することが望ましいと考える。**

- b. **3年次学生（2019C）については、過年度のアンケート結果と照らし合わせる限り、この学年固有の傾向である**とも思えるが、報告書公表時点でこの学年は4年次後期であり、残りの履修科目もほとんどなく、**この学年に特化した対策は取りようがない。ただし、なぜこの学年がそのような傾向を見せるのかについて、卒業時の学生生活の実態調査とあわせて分析を行い、その結果を今後の在学生に対する教育に反映させていく必要がある。**

4. 付録

学生による「授業改善」のための調査（質問項目）

「授業改善」のための実施について（前期・後期）

Webによる「授業改善」のための調査実施のお願い

学生による授業改善のための調査 集計結果表（科目別）

学生による授業改善のための調査

*必須

自分の授業取り組みについての評価

1.授業の内容に興味・関心を持つことができた*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

2.この授業のシラバスをよくチェックした*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

3.この授業のために予習・復習をした*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

4.この授業で質問等を積極的にした*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

5.授業とは関係のない行為（私語や携帯電話の使用など）をしなかった*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

6.総合的に判断して自分はこの講義の目標を達成することができたと思う*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

授業に対する評価

7.この授業の目標、目的は明確であった*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

8.この授業において、教員の熱意が感じられた*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

9.教員の話し方は明瞭でかつ適切な速さであった*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

10.この授業の学習内容の難易度は適切であった*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

11.この授業の学習内容の量は適切であった*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

12.この授業では理解向上のために、教材や講義の方法などの工夫がなされていた*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

13.シラバスと授業内容が一致していた*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

総合評価

14. Q1からQ13までを総合的に考慮してこの授業で満足いく学びを得ることができた*

1 2 3 4 5
全くあてはまらない よくあてはまる

自由記述

この授業の良いと思ったところ、要望等、調査について気づいたことを入力してください

回答を入力

戻る

送信


2021年度 前期 「授業改善」のための調査の実施について

2021年度前期に履修しているすべての科目について、Web上の専用入力フォームにアクセスし、「授業改善のための調査」に回答をお願いします。入力はパソコン、スマートフォン、タブレット端末等から可能です。学内のWi-Fiも利用できます。(Wi-Fiの詳細は裏面)

この調査は、今後の授業をより良くする目的として実施するもので、それ以外の目的には一切使用いたしません。集計にあたっては、回答者の匿名性に配慮します。授業改善のために役立つ率直な意見をご記入ください。

回答用URL: <https://goo.gl/HznaxR> (全科目で使用しますので、ブックマーク等に登録してください)

または、QRコード読み取りアプリにて、右のQRコードを読み込んでください。
 コンピュータ室から回答する場合は、共有フォルダ内「_2021前期授業改善のための調査」からも可能です。



回答期間: 原則として授業内で回答時間が指示されます。(この用紙は全科目で使用しますので無くさないように保管してください)
 最終週の授業でも回答指示がなかった場合、**各自で7月30日(金)までに回答してください。**(集中講義は、講義終了後1週間以内)

回答科目: 2021年度 前期に履修登録している全科目(ただし学外実習、卒業論文を除く)
 ※回答確認欄を利用し、未回答科目がないようにお願いします。

回答確認メール: 入力したメールアドレスに回答確認メールを送信します。

項目について: ① 下記の表にある、科目番号、科目名、教員名を選択してください。
 ② 未入力項目があると送信できません。
 ③ 1科目につき、1人1回ずつ回答してください。誤って送信してしまった場合は、FD委員会までお願いします。
 ④ 学籍番号・メールアドレスはアンケートの信頼性を高めるために使用するのみで、教員には伝わりません。成績評価にも一切影響しませんので、安心して率直にお答えください。自由記述は個人を特定されない形で教員へ結果を配布します。
 なお、調査に回答していない場合は、FD委員会より連絡することがあります。

≪健康栄養学科≫ ※こども発達学科は次のページ

開講クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄	開講クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄
1N	3101	倫理学	齋藤 雅俊		2N	3135	時事英語 I	杉本 久美子	
	3104	歴史学	石戸谷 繁			3137	ドイツ語 I	比内 馨	
	3105	地域活性化論	前田 朝美			3139	フランス語 I	工藤 貴子	
	3111	化学A	富田 雅弘			3304	地域健康支援実習	金田 直子	
	3113	物理学	比内 馨			3305	健康科学実習	前田 朝美	
	3114	統計学	小林 琢哉			3310	栄養生理学	飯泉 恭一	
	3115	生命科学	友田 志郎			3311	基礎免疫学	清水 将之	
	3121	情報機器の操作 I	奈良 拓哉			3314	生化学実験	飯泉・奥野	
	3131	英語	杉本 久美子			3317	食品学	富田 雅弘	
	3132	生活の英語 I	保村 和良			3324	調理学実習	今村 麻里子	
	3151	体育 I	神 和人			3326	基礎栄養学実験	奥野 海良人	
	3302	社会福祉論	齋藤 史彦			3328	世代別栄養学	市川 知美	
	3308	生化学	飯泉・奥野			3342	公衆栄養学	餅 美知子	
	3320	調理学	北山 育子			3345	給食経営管理論	妹尾・花田(玲)	
	3325	基礎栄養学	奥野 海良人			3432	家庭経営学(2)	工藤 寧子	
	3333	健康教育論	前田 朝美			3451	住居学	北原 啓司	
	3404	食の心理学	萩臺 美紀			3463	保育学(2)	福士 章子	
	3407	健康情報学	比内 馨			3472	データ解析演習	奈良 拓哉	
3441	被服学	葛西 美樹		3501	家庭科教育法 I	工藤 寧子			
3446	アパレルCAD実習(1)	工藤 寧子		3601	教育原理	齋藤 雅俊			
3451	住居学	北原 啓司		3602	教職の理解	石戸谷 他			
3N	3312	微生物学	富田 雅弘		3603	教育行政	桐村 豪文		
	3313	解剖生理学実験	清水・飯泉		3606	教育課程論	森本 洋介		
	3329	スポーツ・運動栄養学	中村 亜紀		3201	卒業論文		実施しない	
	3332	食行動論	前田 朝美		3349	臨地実習総合演習	妹尾・餅・木下・前田		
	3337	臨床栄養管理学	木下・高野・高屋		3350	給食経営管理臨地実習	妹尾 良子	実施しない	
	3338	臨床栄養生化学	木下 康子		3351	公衆栄養学臨地実習	餅 美知子	実施しない	
	3340	臨床科学実験	辻 秀美		3352	臨床栄養学臨地実習 I	木下 康子	実施しない	
	3343	地域健康栄養学	餅 美知子		3353	臨床栄養学臨地実習 II	木下 康子	実施しない	
	3347	給食経営管理実習	妹尾・花田(玲)		3517	教育実習	教職課程委員会	実施しない	
	3422	学校栄養教育論	前田 朝美		3519	栄養教育実習(事前事後指導を含む。)	前田・今村	実施しない	
	3443	被服平面構成実習	葛西 美樹						
	3471	家庭電気・機械	比内 馨						
	3503	家庭科教育法Ⅲ	葛西 美樹						
	3608	総合的な学習の時間の指導法	花田 裕						
	3612	教育相談	萩臺 美紀						

※ 網掛部分は卒業必修科目

《こども発達学科》

開講 クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄 ☑	開講 クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄 ☑
1C	2108	心理学	小林 琢哉		2C	2123	物理学	比内 馨	
	2109	地域活性化論	前田 朝美			2147	ドイツ語 I	比内 馨	
	2131	論作文技術 I	船水 周			2149	フランス語 I	工藤 貴子	
	2133	情報機器の操作 I	奈良 拓哉			2204	教育課程論	森本 洋介	
	2141	英語A I	保村 和良			2209	声楽 I	諏訪 才子	
	2143	英語B I	杉本 久美子			2234	ICTの基礎	友田 志郎	
	2161	体育 I	大島・神			2301	国語 I	船水 周	
	2202	教育原理	齋藤 雅俊			2304	社会B	石戸谷 繁	
	2205	保育原理	安川 由貴子			2308	理科B	友田 志郎	
	2207	ピアノ基礎 I (※担当の教員一人のみ回答)	一戸 智之 吉田 裕美子			2312	図画工作A	岩井 康頼	
	2211	被服・調理の基礎実習	葛西・今村(麻)・工藤(寧)			2315	小学体育A	大島・今	
	2220	基礎ゼミ I	齋藤 雅俊他			2502	子どもの保健	松尾 泉	
	2232	被服学概論	葛西 美樹			2505	子どもの言葉	船水 周	
	2233	食物学概論	富田 雅弘			2507	ピアノ表現 I	一戸 智之	
	2236	児童文学	藤田 晴央			2509	造形表現A	岩井 康頼	
	2310	音楽 I	一戸・諏訪			2511	子どもの運動あそび I	小関 潤子	
	2504	子どもの環境	長尾 明義			2603	人間関係の指導法	吉田 裕美子	
	2701	教職の理解	石戸谷 他			2604	環境の指導法	佐藤 崇之	
	2804	保育者論	安川 由貴子			2806	保育の計画と評価	江莉川 淳子	
	2811	社会的養護 I	増田 貴人			2809	乳児保育 II	福士 章子	
				2813	保育実習指導 I	保育士課程委員会			
3C	2104	法学	小野 昇平		4C	2335	国語科教育法	船水 周	
	2105	経済学	兼平 拓道			2336	社会科教育法	本間 信博	
	2107	社会学	石戸谷 繁			2337	算数科教育法	久慈 和寛	
	2222	卒業研究 I		実施しない		2338	理科教育法	花田 裕	
	2237	児童文化論	吉田 裕美子			2340	音楽科教育法	一戸 智之	
	2314	家庭	葛西・工藤(寧)			2341	図画工作科教育法	蝦名 敦子	
	2317	小学英語	杉本 久美子			2343	体育科教育法	上野 秀人	
	2401	国語科教育法	船水 周			2345	特別活動の指導法	花田 裕	
	2402	社会科教育法	本間 信博			2358	生徒指導	石戸谷 繁	
	2409	体育科教育法	上野 秀人			2359	教育相談	萩臺 美紀	
	2602	健康の指導法	小関 潤子			2361	教育実習(小)	教職課程委員会	実施しない
	2606	表現の指導法A I	諏訪 才子			2362	事前事後指導(小)	花田(裕)・杉本	
	2608	表現の指導法B I	岩井 康頼			2363	学校教育体験実習 I (小)	教職課程委員会	実施しない
	2702	教育行政	桐村 豪文			2373	児童家庭福祉(1)	小野 昇平	
	2705	総合的な学習の時間の指導法	花田 裕			2389	保育相談支援	江莉川 淳子	
	2709	子どもの理解と援助	萩臺 美紀						
	2716	事前事後指導(幼)	吉田 裕美子						
	2717	教育実習(幼)	教職課程委員会	実施しない					
	2816	保育実習指導 II	保育士課程委員会						

※ 網掛部分は卒業必修科目

【柴田学園大学Wi-Fi】
ID : shibata-wifi
パスワード : gakuen-2021

柴田学園大学FD委員会(問合せ先:学務課)

2021年度 後期 「授業改善」のための調査の実施について

2021年度後期に履修しているすべての科目について、Web上の専用入力フォームにアクセスし、「授業改善のための調査」に回答をお願いします。入力はパソコン、スマートフォン、タブレット端末等から可能です。学内のWi-Fiも利用できます。(Wi-Fiの詳細は裏面)

この調査は、今後の授業をより良くする目的として実施するもので、それ以外の目的には一切使用いたしません。集計にあたっては、回答者の匿名性に配慮します。授業改善のために役立つ率直な意見をご記入ください。

回答用URL: <https://goo.gl/aBWDsV> (全科目で使用しますので、ブックマーク等に登録してください)

または、QRコード読み取りアプリにて、右のQRコードを読み込んでください。

コンピュータ室から回答する場合は、共有フォルダ内「_2021後期授業改善のための調査」からも可能です。



回答期間: **原則として授業内で回答時間が指示されます。**(この用紙は全科目で使用しますので無くさないように保管してください)

最終週の授業でも回答指示がなかった場合、**各自で2月10日(木)までに**回答してください。(集中講義は、講義終了後1週間以内)

回答科目: **2021年度 後期に履修登録している全科目(ただし学外実習、卒業論文を除く)**

※回答確認欄を利用し、未回答科目がないようにお願いします。

回答確認メール: 入力したメールアドレスに回答確認メールを送信します。

項目について: ① 下記の表にある、科目番号、科目名、教員名を選択してください。

② 未入力項目があると送信できません。

③ 1科目につき、1人1回ずつ回答してください。誤って送信してしまった場合は、学務課までお願いします。

④ 学籍番号・メールアドレスはアンケートの信頼性を高めるために使用するのみで、教員には伝わりません。成績評価にも一切影響しませんので、安心して率直にお答えください。自由記述は個人を特定されない形で教員へ結果を配布します。

なお、調査に回答していない場合は、学務課より連絡することがあります。

《健康栄養学科》 ※こども発達学科は次のページ

開講クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄	開講クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄
1N	3102	生活と文学	船水 周		2N	3123	プレゼンテーション論	友田・奈良	
	3103	日本国憲法	小野 昇平			3134	科学のための英語	杉本 久美子	
	3112	化学B	飯泉 恭一			3136	時事英語Ⅱ	杉本 久美子	
	3122	情報機器の操作Ⅱ	奈良 拓哉			3138	ドイツ語Ⅱ	比内 馨	
	3133	生活の英語Ⅱ	保村 和良			3140	フランス語Ⅱ	工藤 貴子	
	3152	体育Ⅱ	神 和人			3306	解剖生理学	清水・飯泉	
	3301	地域健康支援論	加藤・今村			3307	病態別生理学	清水 将之	
	3303	健康衛生学	太田 誠耕			3315	栄養生化学実験	奥野 海良人	
	3309	栄養生化学	奥野 海良人			3316	栄養生理学実験	飯泉 恭一	
	3318	食品健康科学	前多 隼人			3322	食品学実験	富田 雅弘	
	3323	基礎調理学実習	今村 麻里子			3330	応用栄養学実習	真野 由紀子	
	3327	応用栄養学	真野 由紀子			3331	栄養教育論	前田 朝美	
	3403	トレーニング科学	大島 義晴			3335	臨床栄養学	木下 康子	
	3405	おいしさの科学	奥野 海良人			3346	給食経営実践論	妹尾・花田(玲)	
	3406	食品機能学	富田 雅弘			3421	健康・食生活論	今村 麻里子	
	3431	家庭経営学(1)	工藤 寧子			3445	被服学実験	葛西 美樹	
3442	被服立体構成実習	工藤 寧子		3502	家庭科教育法Ⅱ	林 孝子			
3461	保育学(1)	福士 章子		3604	教育心理学	小林 琢哉			
3462	家庭看護	大津 美香		3607	道徳教育の指導法	齋藤 雅俊			
				3609	特別活動の指導法	花田 裕			
				3610	教育方法・技術	森本 洋介			
3N	3201	卒業論文		実施しない	4N	3518	教職実践演習(中・高)	齋藤(雅)・小林・葛西他	
	3319	食品科学	富田 雅弘			3520	教職実践演習(栄養教諭)	齋藤(雅)・小林 他	
	3321	食品科学実験	富田 雅弘						
	3334	栄養教育論実習	前田 朝美						
	3336	実践介護食事論	辻 秀美						
	3339	臨床栄養学実習	木下 康子						
	3341	臨床福祉栄養学実習	佐藤 史枝						
	3344	公衆栄養学実習	餅 美知子						
	3348	栄養管理総合演習	妹尾・餅・木下						
	3504	家庭科教育法Ⅳ	葛西 美樹						
3605	特別支援教育論	松本 敏治							
3611	生徒指導(進路指導を含む。)	石戸谷 繁							
3613	事前事後指導(中・高)	葛西 美樹							
3616	栄養教育実習(事前事後指導を含む。)	前田・今村		16					

※ 網掛部分は卒業必修科目

柴田学園大学FD委員会(問合せ先:学務課)

《こども発達学科》

開講クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄 ☑	開講クラス	科目番号	科目名	担当教員名	回答確認欄 ☑
1C	2101	倫理学	齋藤 雅俊		2C	2122	化学	飯泉 恭一	
	2103	日本国憲法	小野 昇平			2148	ドイツ語Ⅱ	比内 馨	
	2124	生物学	友田 志郎			2150	フランス語Ⅱ	工藤 貴子	
	2125	数学	比内 馨			2210	声楽Ⅱ	諏訪 才子	
	2126	統計学	小林 琢哉			2235	ICT活用法	友田 志郎	
	2132	論作文技術Ⅱ	船水 周			2302	国語Ⅱ	船水 周	
	2134	情報機器の操作Ⅱ	奈良 拓哉			2305	算数A	高橋 信進	
	2142	英語AⅡ	保村 和良			2307	理科A	比内 馨	
	2144	英語BⅡ	杉本 久美子			2313	図画工作B	岩井 康頼	
	2162	体育Ⅱ	大島・神			2316	小学体育B	今 和香子	
	2201	家政学原論	工藤 寧子			2405	生活科教育法	長尾 明義	
	2203	教育心理学	小林 琢哉			2501	子どもの健康と安全	福士 章子	
	2206	保育の心理学	萩臺 美紀			2506	子どもの表現	岩井・諏訪	
	2208	ピアノ基礎Ⅱ (※担当の教員一人のみ回答)	一戸 智之 吉田 裕美子			2508	ピアノ表現Ⅱ	一戸 智之	
	2221	基礎ゼミⅡ	齋藤 雅俊他			2510	造形表現B	岩井 康頼	
	2309	生活	長尾 明義			2512	子どもの運動あそびⅡ	小関 潤子	
	2311	音楽Ⅱ	一戸・諏訪			2605	言葉の指導法	船水 周	
	2503	子どもの人間関係	吉田 裕美子			2703	特別支援教育論	松本 敏治	
	2601	保育内容総論	安川 由貴子			2704	道徳教育の指導法	齋藤 雅俊	
	2808	乳児保育Ⅰ	吉田 裕美子			2707	教育方法・技術	森本 洋介	
2812	社会的養護Ⅱ	増田 貴人		2805	子ども家庭支援の心理学	萩臺 美紀			
				2810	障害児保育	若林 一哉			
				2814	保育実習ⅠA	保育士課程委員会	実施しない		
				2815	保育実習ⅠB	保育士課程委員会	実施しない		
3C	2102	国文学	船水 周		2209	卒業論文		実施しない	
	2106	歴史学	石戸谷 繁		2223	特別支援教育論	松本 敏治		
	2121	自然科学概論	比内 馨		2226	人権教育論	小野 昇平		
	2223	卒業研究Ⅱ		実施しない	2360	教職実践演習(幼・小)	齋藤 雅俊 他		
	2241	児童心理学研究法	小林 琢哉		2364	学校教育体験実習Ⅱ(小)	教職課程委員会	実施しない	
	2403	算数科教育法	久慈 和寛		2372	相談援助	久保 治美		
	2404	理科教育法	花田 裕		2374	児童家庭福祉(2)	小野 昇平		
	2406	音楽科教育法	一戸 智之		2384	家庭支援論	安川 由貴子		
	2407	図画工作科教育法	蝦名 敦子		2396	保育実践演習	安川 由貴子		
	2408	家庭科教育法	葛西・工藤(寧)						
	2410	外国語(英語)教育法	杉本 久美子						
	2513	子どもの食と栄養	岡本 由美子						
	2514	子育て支援	安川 由貴子						
	2607	表現の指導法AⅡ	諏訪 才子						
	2609	表現の指導法BⅡ	岩井 康頼						
2706	特別活動の指導法	花田 裕							
2710	教育相談	萩臺 美紀							
2803	社会福祉	小野 昇平							
2817	保育実習Ⅱ	保育士課程委員会	実施しない						

※ 網掛部分は卒業必修科目

【柴田学園大学Wi-Fi】

ID : shibata-wifi

パスワード : gakuen-2021

柴田学園大学FD委員会(問合せ先:学務課)

各 位

FD 委員会

Web による「授業改善」のための調査実施のお願い

講義最終日または 14 回目の講義内で、5～10 分程度調査回答のための時間を必ず設けて回答させてください。(講義内で回答時間を設けられなかった場合、学務課までご連絡をお願いします)

学生には事前にメールにて「20**年度 *期 「授業改善」のための調査の実施について」を送信していますので、それを元に回答させるようお願い致します。

調査について質問があった場合は、学務課まで問い合わせるようお願いください。

この調査は、大学の自己点検・自己評価の資料として、FD に関連して実施するものです。後日、担当している科目の調査結果をお渡し致します。先生方の授業改善のためにお役立て頂きたいと思っております。

なにとぞ、主旨をご理解の上、ご協力頂きたくお願い致します。

◇ 調査を始める前に学生に下記の事項を読んでください。

1. 【一般講義室での講義の場合】

スマートフォン、携帯電話等を出して、「授業改善」のための調査の回答画面を開いてください。(講義室内に掲示の QR コードからも回答できます。)

【コンピュータ室で実施している講義の場合】

共有フォルダ内の「__前期授業改善のための調査」を開いてください。

【体育館・音楽室等の場合】

(学内の無線 LAN が使用できませんので、講義終了後に各自必ず回答するようお願いいただくか、一般講義室へ移動して回答させてください。)

2. (授業の科目番号、科目名を読み上げて、) この科目について調査に回答してください。自由記述欄もできるだけ記入してください。

3. 電波が弱い、接続ができない、端末がない等で、講義内での回答ができない学生は、講義終了後にコンピュータ実習室のパソコンにて、速やかに回答してください。

20**年度 ○期 学生による授業改善のための調査 集計結果表 (科目別)

科目番号	5555
科目名	*****
教員名	○○○○

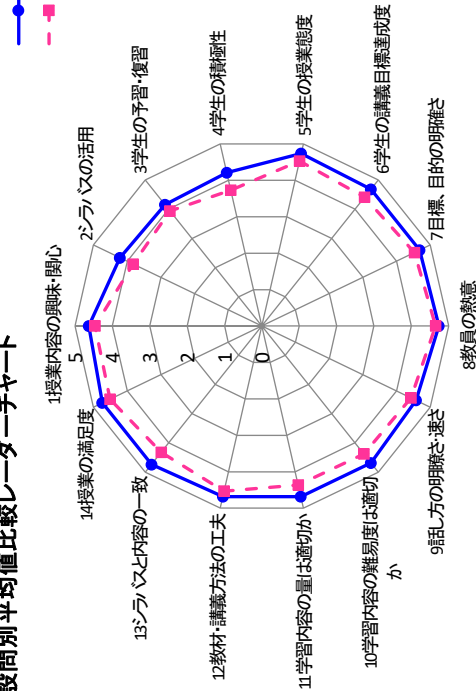
対象学科	○年 **学科
授業形態	演習
教員番号	***

履修者数	29 名
回答者数	19 名
回答率	65.5 %
全学平均回答率	60.6 %

○項目別回答分布(人数と平均値)

区分	項目番号	設問文	回答分布(人)					平均	学科平均
			5 よくあてはまる	4 まあまああてはまる	3 どちらでもない	2 あまりあてはまらない	1 まったくあてはまらない		
学生自身について授業の評価	1	授業の内容に興味・関心を持つことができ	13	5	1	0	0	4.6	4.5
	2	この授業のシラバスをよくチェックした	10	5	3	0	1	4.2	3.8
	3	この授業のために予習・復習をした	9	4	6	0	0	4.2	3.9
	4	この授業で質問等を積極的にした	10	4	4	1	0	4.2	3.7
	5	授業とは関係のない行為(私語や携帯電話の使用など)をしなかった	16	1	2	0	0	4.7	4.5
	6	総合的に判断して自分はこの講義の目標を達成することができたと思う	14	4	1	0	0	4.7	4.4
授業についての評価	7	この授業の目標、目的は明確であった	14	4	1	0	0	4.7	4.5
	8	この授業において、教員の熱意が感じられた	15	3	1	0	0	4.7	4.6
	9	教員の話し方は明瞭でかつ適切な速さであった	13	4	2	0	0	4.6	4.4
	10	この授業の学習内容の難易度は適切であった	15	2	2	0	0	4.7	4.4
	11	この授業の学習内容の量は適切であった	15	2	2	0	0	4.7	4.4
	12	この授業では理解向上のために、教材や講義の方法などの工夫がなされていた	14	4	1	0	0	4.7	4.5
	13	シラバスと授業内容が一致していた	15	3	1	0	0	4.7	4.3
	14	Q1からQ13までを総合的に考慮してこの授業で満足いく学びを得ることができた	15	3	1	0	0	4.7	4.5

○設問別平均値比較レーダーチャート



○自由記述

.....

